

障害者支援事業所

**みどり園**

施設長：菅原 敦  
 職員数：41名  
 開設：昭和55年4月  
 所在地：  
 伊勢原市栗窪605-1  
 電話 0463-93-4722



施設の外観：現在増築  
 工事中です。



利用者さんと職員による集合写真です。



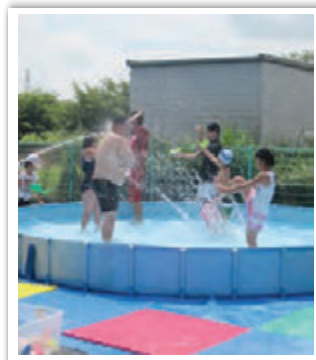
増築でシンボルツリー  
 は止むなく伐採に。  
 神事とお別れの会を行  
 いました。



食事：クリスマス会  
 行事食は利用者さん  
 にも相談して決めて  
 います。



活動：缶回収(選別)  
 特性に応じた活動メ  
 ニューに取り組んで  
 います。



障害児の受け入れ：レスパイト  
 大好きなプログラム のひと  
 つ“水遊び”です。

みどり園は基本的に知的障害者の支援施設で68名の利用者さんが男女別の  
 部屋で寝起きをし食事や日中活動等を行っています。夏休みをはじめ養護  
 学校の休業期間や平日の放課後等は障害児の受入れもしています。

# 福祉の輪を広げたい

第21号 2014年1月発行

## 特集 伊勢原観光道灌祭りへの協力

法人本部が伊勢原市栗窪から伊勢原市伊勢原に移転したのは、一昨年  
 の2月でした。(移転登記は昨年4月)

伊勢原3丁目への移転を御承認いただく評議員会の席上で元伊勢原市  
 義会議長の葛貫澄雄評議員より『伊勢原市最大の観光イベント：伊勢原  
 観光道灌まつりの会場に接する場所に移転するのだからイベントには積  
 極的に協力してほしい』と要望が出されたもの一昨年は外壁改修工事  
 の最中だった為今回は初めての道灌まつりへの協力となりました。

障害者就労継続B型事業所『つくし』が、リサイクル店や焼きそば等  
 の飲食を出店すると共に、来場者が気軽に写真撮影できる『顔出しパネ  
 ル』を設置しました。

祭り2日間の初日は天候に恵まれなかったものの2日目は快晴。店は  
 完売、パネルには多くの人々が訪れ、大成功となりました。

顔出しパネルは年月日が入り、毎回趣向を凝らす新しいものとなりま  
 すので毎年楽しんでいただければと思います。

出来ることから地域への貢献、御協力をさせていただきますので御指  
 導御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



賑わった飲食コーナー



顔出しパネルで、パチリ！

皆さまのご支援を頂き、「福祉の輪広  
 げたい」21号を迎えることが出来まし  
 ました。「社会福祉法人緑友会」の歴史が詰  
 まった広報誌です。利用者さんや職員の  
 その時々のお姿をお伝えしてまいりまし  
 ました。更に創刊号から20号までの集約号  
 を製本化した冊子を同梱してお届けする  
 ことができ、関係者のご協力を改めて感  
 謝を申し上げます。

編集  
 後記

「福祉の輪広げたい」第21号  
 発行：2014年1月  
 発行責任者：岩崎尊之 (理事長)  
 編集責任者：諸橋 晃 (広報担当理事)  
 事務局：社会福祉法人緑友会 総務部  
 伊勢原市伊勢原3-6-7  
 Tel 0463-73-7221  
 印刷：カサハラ印刷株式会社  
 伊勢原市白根475-1

社会福祉法人緑友会 各施設のご案内	
社会福祉法人緑友会 本部	伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-73-7221
障害者支援施設 <b>みどり園</b>	伊勢原市栗窪605-1 Tel: 0463-93-4722
障害者支援施設 <b>清川ホーム</b>	愛甲郡清川村煤ヶ谷3293 Tel: 046-288-2911
認可保育所 <b>伊勢原ふたば保育園</b>	伊勢原市高森1391-3 Tel: 0463-92-6226
認定あつぎ保育室 <b>本厚木ふたば保育園</b>	厚木市田村町7-3-2 F Tel: 046-295-2525
知的障害者 グループホーム <b>げんき家</b>	伊勢原市桜台2-16-25-201 Tel: 0463-91-7865
就労継続支援B型事業所 <b>つくし</b>	伊勢原市田中70-5-201 Tel: 0463-92-7900
相談支援事業 <b>つくし相談室</b>	伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-73-6027
居宅介護事業 移動支援事業 <b>ナイス</b>	伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-73-6027

第21号の内容

**特集** 伊勢原観光道灌まつりへの協力 ---1

NEWS ..... 2・3

ピックアップ ..... 4・5

もろさんが行く ..... 6・7

法令遵守体制の構築について---- 8



道灌まつりスナップ



いらっしゃい、美味しいですよ



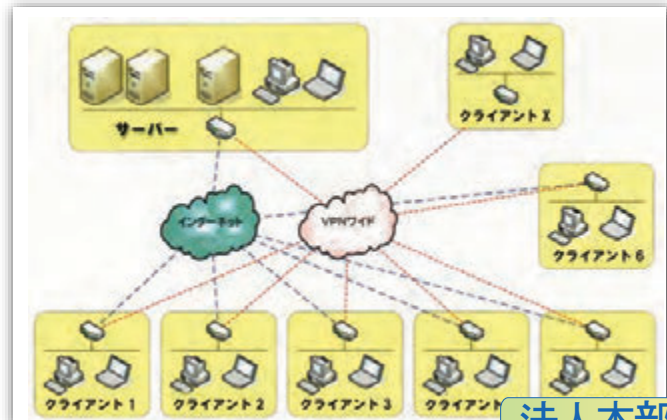
NEWS 1 職員採用にマイナビと契約！



法人本部

伊福祉職は在宅介護や老人ホームが急激に増えていますし、保育士も横浜市で一気に保育所を増やした事等により職員の確保は法人にとって最重要課題です。本年度より『マイナビ』さんと契約を結び、更に体制を強化しました。

NEWS 3 各種書類、統一化の進展



法人本部

現代社会では様々なリスクに対応していくために書類の質と量が急激に増えています。必要なこととはいえ対応には苦慮しています。総務部主導で統一化や簡略化を図り改善を行っています。

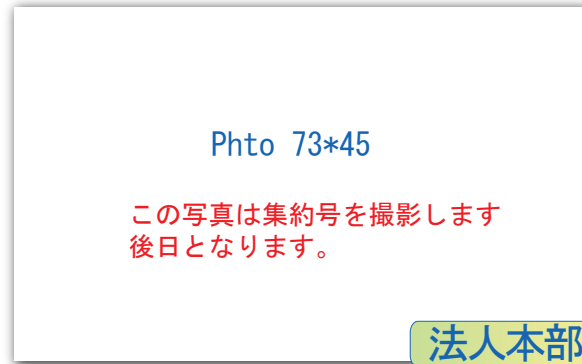
NEWS 5 園庭拡張（第1期）工事：完成



伊勢原ふたば保育園

年長さんと年少さんでは体の大きさも違い、ぶつかったことで怪我につながることもあります。関係者様の御理解により今回、園庭を拡張し体力向上につながる築山等も整備しました。

NEWS 2 緑友会通信第1回集約号の発行



法人本部

お蔭様で、緑友会通信『福祉の輪上げたい』は10年間で20号までの発行をしました。散逸を防ぐためにも第1回集約号を発行しました。なるべく多くの皆さんの記念になるようにと集合写真等も掲載しました。是非、ご覧下さい。

NEWS 4 社会福祉協議会表彰：3名！



菅原施設長



秋本副施設長

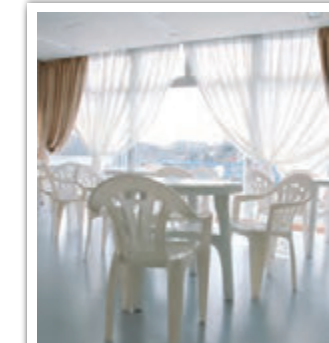


斉藤主任

みどり園

神奈川県社会福祉協議会では勤続25年以上の優秀な職員を表彰していますが、今年は緑友会より、菅原みどり園施設長、秋本同副施設長、斉藤清川ホーム主任の3名が受賞の栄に浴しました。

NEWS 6 来春開設事業所の名前が決定！



アトリエ・ヴェルデ

紙面でも何回もお伝えしました新たに開設予定の就労継続B型支援事業所の名称が『アトリエ・ヴェルデ』に決まりました。ヴェルデはイタリア語で『緑』の意味です。御期待下さい。

伊勢原ふたば保育園 園庭と駐車場の拡張

矢作総務部長と伊勢原ふたば保育園澁谷園長をお尋ねしました。

Y. 矢作総務部長 S. 澁谷園長 M. もろさん

伊勢原ふたば保育園は、みどりが多い恵まれた環境にあるとはいえ、駐車場への進入路は狭い上に対面通行でした。このため、朝夕の送り迎えの時は大変な混雑でしたが、この度保育園の前の市道が整備されるのを機に改善することができました。まずその経緯を伺いに矢作総務部長をお尋ねしました。

Y. 保育園の前の道路は市道59号線です。伊勢原市では、地元の生活環境の向上や成瀬小学校・中学校、向上高校等の通学路の完全確保のため、昨年度から59号線の整備事業を進めています。保育園も出入り口の土地を提供するなど協力をしています。園庭の拡張と駐車場進入路の改善は長年の懸案事項でしたが、この度、市道と園との間の土地を地主さんの御好意により借地することができ、園庭の拡張と一方通行が実現できました。

まだ新園庭は未完成の所もありますが、もろさんは早々に澁谷園長をお尋ねしました。（昨年11月）

M. 広がった園庭で、真っ先に大きな土管トンネルと遊具が目に入りました、子ども達は喜んでいらっしゃるのでしょうか？  
S. グランドの土質が良く、風のある日は埃に悩ませられていましたが新園庭では解消されました、なにより子どもたちが走ってもつまずきも少なく、擦り傷が減ったように思います。

大きな土管トンネルでは、子どもたちは毎日走り抜けたり、覗き合ったり、土管の中に響き合う声を楽しんでいます。保育士さん達にもこの土管は子どもたちの遊びのバリエーションが広がり赤ちゃん組の子とぶつかることもないとすごく好評です、そして遊具と一体で遊んでいます。

M. 駐車スペースも広くなりましたよね、いつもすれ違いは気になっていました、それにぐるっと一方通行の出入りで安心ですね。

S. 大型のワゴン車で送迎が増えています、ドアの開閉で隣の車に接触などがありました。余裕を持って駐車でき喜ばれています。それに何より朝夕の忙しい時間の待ちでイラ立つことが無くなりました。また駐車場と園へのセキュリティ対策も万全で安心です。

M. 園長先生の今後の思い入れなど伺わせて下さい。  
S. 来春をメドに土管のトンネルの上を緑の芝生で覆い、子どもたちは小さな山登りを楽しみ、足腰がきつと鍛えらことでしょう。花みずきの木陰にウッドデッキが出来れば、さわやかな風に吹かれて戸外でのおやつタイムが楽しめるといいなあ。子どもたちの喜ぶ顔を思い浮かべ楽しい夢が膨らみます。

もろさんが行く2



この市道も平成26年度には整備予定です。



朝夕の送り迎えは一方通行です



園庭に新設の土管トンネル



駐車スペースが広くなりました



セキュリティ対策も万全で安心です

もろさん

もろさんの経歴：会社役員を経て、現在はお店を経営  
岩崎理事長とは長い付き合い。緑友会の評議員を経て、現在広報担当の理事になりました。法人の話題のほか、市内や県内、気になるところに行ってお話をうかがいます。



緑友会理事 諸橋 晃



### 3Dプリンター

最近3Dプリンターが話題になっています。

紙に印刷するプリンターは、パソコンと一体の周辺装置です、中でもインクジェットプリンターは職場やご家庭でも普通に使われています。紙の表面に細かいインクの粒を吹きつけて付着させ文字や画像を出力します。基本的にはこの技術の延長で立体物を作るのが3Dプリンターで、まずパソコンなどで3D（3次元）のデータを作成してインクの代わりに樹脂等を少しずつ塗り重ねつつ固め立体物を作ります。フルカラーのインクジェットプリンターは最初に発売されたのが25年程前で、サンプルを見る機会がありましたがそれほどの感動ではありませんでした。しかし今やフィルム写真の画質を追い越すほどの進歩で当時は予想も出来ませんでした。

3Dプリンターは現在米国がトップランナーですが「ものづくりの世界を大きく変える」可能性があると考えられています。例えば日本でも心臓手術の準備用に個人毎の心臓模型を3Dプリンターで作成して繁盛している会社がテレビで紹介されました。

また趣味用に簡単な3Dプリンターが10万円以下で購入できるとの話題もあり、ある大学の研究室での実験映像をネットで紹介していましたがこれは感動しました。

もろさんはまず3Dプリンターを動かす事の出来る3次元のデータを作ってみる事から手をつけました。Autodeskというソフト会社（米国）が3Dプリンターによる物づくりの普及目的で123D Designなるソフトを無償で提供していますので、もろさんは早速ネットからソフトを入手し、試行錯誤の結果マグカップの3Dデータを作ることが出来ました。

下の写真はパソコンの画像でデータは別に保存してあります。大まかな手順は、カップの本体の円柱を作り、次に取手のリングを作り円柱にリングの半分を押し込みます当然内側に飛び出していますが心配ご無用、次はカップ本体の円柱より肉厚分の直径と底の高さ分を減らした円柱を別に作りカップ本体に上から押し込み、それをデータ的に引き算をすると中がくり抜けるという魔法の世界です。取手の付け根を丸く縁取りをしたり、飲み口の縁取りなどはコマンドを選んでマウスを操作すると処理されパソコンで粘土細工をしている感覚でした。

日本のIT大手のある会社にこのデータで発注をすれば世界に一つしかないマグカップが出来ることまでは確認しましたが、マグカップなら100円ショップで購入できるからまだ作成依頼はしておりません。



試行錯誤の結果マグカップの3Dデータを作ることが出来ました。（パソコン画面から）



つくし

8月30日伊勢原市民文化会館で、伊勢原市障害者計画・第4期障害福祉計画策定に伴う障害当事者による意見交換会が行われました。つくしからは利用者1名が参加しています。当事者・支援者・関係者含め36名出席し、それぞれの立場で積極的な意見を発表され、今後はその意見を集約し計画策定が検討されます。

平緑友会では毎年9月に職員意向調査を行い、内容を検討していく後に、各施設の代表者等による処遇改善検討委員会を設置し『働きやすく能力が引き出され発揮できる職場』を目指し、検討及び改善が行われます。今回の検討項目は下記の6点に決まりました。

- ① 看護のオンコール体制の検討
- ② 調理におけるリーダー体制の検討
- ③ 支援現場の事務処理（支援費請求）の検討
- ④ 法人全体の交流機会に関する検討
- ⑤ 職員等の安心確保のため等の保険の見直し
- ⑥ 5年ごとの基本給状況調査の検討



清川ホーム

12月3日からの1週間を『障害者週間』として障害者の福祉について関心と理解を深める等の活動がされています。NHK首都圏ニュースの特集に岡崎施設長が取材を受け放映されました！



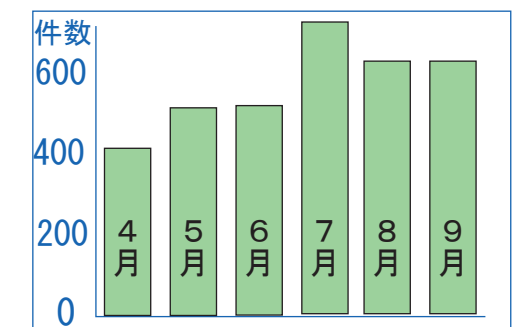
本厚木ふたば保育園

年長さん達が階下に気にすることなく遊具やリズム運動等が自由に出来、より一層、体力や感性を高めるための新たな活動スペースの工事が始まりました。お楽しみに！



清川ホーム

清川ホームの入口となる県道は山間をぬっているため見通しが悪く事故の危険性も高いものですが安全性を高めるために、バイパス道路が計画され工事が始まっています。期待しましょう！



本年9月までの相談件数  
3628件  
昨年1年では  
1578件

つくし相談室

市の相談室が3月末で終わり民間事業者が役割を果たすようになり半年。上表の通り大幅に相談数が伸びています。つくし相談室では専従体制を強化し対応計画策定を完了しました。頑張ります！



## ピックアップ1

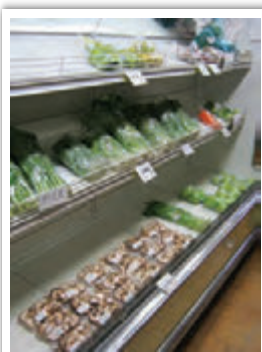
### 地域との連携（清川ホーム）

社会福祉のキーワードの一つが地域との連携です。清川ホームは開設当初から地元清川村との強い結びつきのもとで利用者の生活支援を行ってきました。毎年ご招待していただく農業まつりや社会福祉協議会のもちつきは利用者の皆さんがとても楽しみにされている行事です。また作業の燃料用まき束作りを援助して下さる山口製材様、椎茸栽培の小屋作りを応援して下さる高橋様、園行事を応援して下さるボランティアサークルよもぎの会様など数え切れないくらい多くの方に支えられて日常の生活支援が成り立っています。地域との結びつきを象徴するのが夏に行われる清川ホーム・サマーフェスティバルです。年々参加者がふえ、昨年は490名もの参加を得て盛大に実施されました。利用者、保護者・職員など施設関係者が109名、それ以外の381名が地元清川村を中心とした地域の方々です。青龍太鼓やいろり座三浦さんの三味線演奏、盆踊りのリードは煤ヶ谷婦人会の皆様、緑中学校のボランティアや地域サポーターの皆様、それに清川村大矢村長をはじめ多くのご来賓の方々です。園庭も狭く感じられるほどでした。

この他にも村役場のご理解を得て、交流促進センター「清流の館」で椎茸や花の苗の販売を行ったり、地域環境保全活動の一環として清川カントリークラブの野鳥巣箱作りにも関わらせていただきました。今後も地元のご理解ご協力を得て利用者の生活支援を充実させていきたいと考えています。



清川ホームサマーフェスティバル



清流館での椎茸販売

## ピックアップ2

### 指導者研修会に参加

昨年の秋、保育者のための指導者研修会に参加しました。東京御茶ノ水のソラシティーを会場に3日間にわたって行われ、全国から約500名の参加がありました。最近の保育制度の動向、リスクマネジメント、リーダーの役割など幅広い分野にわたって報告や講義が行われ、新鮮な刺激を受けてきました。平成27年度施行の子ども・子育て関連3法にかかわる国、県、市町村の動きや5年後にピークが予想される待機児童の問題など今後の変化にも注目しなければなりません。私たち保育者の質の向上は世の中の変化にかかわらず、不可欠かつ重要なものと再認識させられました。そのための鍵となるのは、「保育指針」でこれを頭で理解するだけでなく現場でどう生かしていくのかが今最も問われているところです。ひとりよがりではなく“子どもの最善の利益”（保育指針 第1章総則 保育の目的）という共通理解に基づいた保育でなければなりません。そのためには、個々の保育士が志を高くもつこと、そのための環境を整えること、園全体が個人の力を生かせる組織であること、管理職はそのような組織をつくっていく責務を負っているのだと、その責任の大きさを実感した3日間でした。

（伊勢原ふたば保育園主任 松野 ひとみ）



綱引き（雨の運動会、室内で盛り上がりました）

## ピックアップ3

### 仕事をするための工夫（治具）

障害者の就労支援を行う現場では、様々な仕事や作業を取り入れています。ご協力いただける企業や団体から受注した製品の組み立てや、委託された業務を行っています。

サテライトつくし（新年度からは「アトリエ・ヴェルデ」）ではボールペンの組み立て作業や、クリーニング会社からの洗濯物の折りたたみ作業などを行っています。

メンバーひとりひとりの作業能力に違いがあり、個々の能力を生かしながら一定の作業が進行するよう配慮が必要です。そこで登場するのが「治具」と呼ばれる補助具です。治具とはもともと加工や組立ての際、部品や工具の作業位置を指示・誘導するための器具のことです。数を数えることが苦手な方には10個入れば満杯になるような区切られたトレーを用意したり、作業の途中で部品が動かないような固定補助具を作って作業がよりスムーズに行えるよう工夫をします。仕事の種類や個人の能力によって必要な補助具も様々ですが、ちょっとした配慮で作業にうまくのることができる場合も多いのです。写真は片手でボールペンの胴体を持って作業することが苦手な方に、胴体部分60個をひもに挟んで垂直に立て、胴体が立った状態でペンの芯やバネをとりつけるために職員が制作した治具です。個々の適正を見極め、適切な治具を工夫したり環境を整えることで、就労への意欲も向上するのです。



治具を使って仕事の環境を改善

## ピックアップ4

### 真の指導力とは

「学ぶ義理のない関係においてこそ、真の指導力が試される」愛知県犬山市にある京都大学霊長類研究所で長年にわたってチンパンジー「アイ」の教育や子育てに関わってこられた松沢先生（今年度の文化功労者）のことばです。評価や成績とは無縁の状況で“面白そうだ”とか“やってみよう”と意欲を掻き立てたり、あの人に“ほめられたい、喜んでもらいたい”こんな気持ちを引き出すことの難しさと醍醐味を語っておられました。

支援や保育の現場も成績評価や進学競争とは縁のないところです。利用者から見れば、支援員や保育士に対して“学ぶ義理”など全くありません。言い方を変えれば「言うことを聞かないと成績を下げるぞ！」は通用しないのです。指導者の力量がそのまま利用者や園児の活動に反映され、ごまかしがきかないことが多いのです。

自ら作業や制作活動に意欲を燃やし、生活の質を向上させたり、新しいことにチャレンジするためには、安心できる人間関係、黙って頷いてくれる人の存在が不可欠です。指導者自身が研修や自己研鑽に取り組んで人間性を磨き、その指導力を高めていくことが求められています。



お散歩 本厚木ふたば保育園



おだんご作り  
伊勢原ふたば保育園

### ピックアップ選者

選者経歴：元伊勢原養護学校校長  
元県教育相談専門員

現在、県内の専門学校で保育や障害の教鞭をとると共に、当法人の理事兼総合施設長として各施設にて相談や指導を行っています。



緑友会理事  
三田 良典